

サツマイナモリ アカネ科
Ophiorrhiza japonica Blume

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2006.3.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：多湿な照葉樹林やスギ植林の林床に群生する。潜在的な生育適地は広そうだが、実際の自生地は限られている。採取圧もある。

■**特徴**：低山の多湿な照葉樹林，スギ植林の林床に生育する暖地性，小形常緑の多年生草本。茎は細く，地面をはいしばしば大群落となる。基部は木質。高さ5–20 cm。葉は対生し濃緑色でやや光沢があり縁は波うつ。花期は3–5月。枝先に集散花序。白色。花冠は漏斗状で先は5裂。内面は毛におおわれる。花冠は白色だが，押し花にすると赤くなる。和名は発見地の薩摩にちなむ。別名キダチイナモリ。県内の自生地はスギ植林下，神社境内，参道など。

■**分布** 県内：鳥取市・福部町，三朝町，倉吉市。県外：本州（関東南部以西），四国，九州，南西諸島。中国南部。

■**保護上の留意点**：採取防止。照葉樹林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

イナモリソウ アカネ科
Pseudopyxis depressa Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



南部町 2010.6.5 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での自生地は西部の1カ所のみ。個体数は10年前より多少増加し，すぐに絶滅する可能性は低いが，依然として注意が必要。

■**特徴**：山地のやや暗い林内にかたまって生育する多年生草本。地下茎は細く地中をはい，茎は高さ5–10 cm，多細胞の軟毛がある。葉は対生，茎の上部に数対，4枚の葉が目立ち，卵形，全縁，長軟毛。基部は円形–心形で長柄がある。花期は5–6月，茎上部の葉腋または枝先に1–2個，淡紫色の花をつける。花冠は2.5 cmほど，ロート状で5裂，裂片は卵形。花筒内部に短毛があり雄しべ5本，雌しべが突出する。種子は長さ約2.5 mmで縦に条がある。個体数は増加傾向だが自生地の拡大はみられない。

■**分布** 県内：南部町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生地の森林環境の保全管理。採取防止。自生地は斜面で崩壊や流亡が懸念される。一部個体の移植も検討の価値あり。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

オオキヌタソウ アカネ科
Rubia chinensis Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2009.5.26 / 撮影 坂田成孝

■**選定理由**：県内西部の山地に局所的に自生する。林縁の日当たりがよい草地に生育するため，周囲の樹木の影響をうけやすい。

■**特徴**：山地のヒノキ植林下の林道沿い草地，コナラなど落葉樹林林縁などにはえる多年生草本。茎は直立し30–60 cm。葉は4枚輪生，長さ6–10 cm。花期は5–6月。径3–4 mm，緑白色の多数の花をつける。自生地のひとつは植林地林縁で，ヒノキの成長とともに暗くなって消滅の恐れがある。山地林縁部にはえるキヌタソウと比べると，本種は葉柄があり，葉は卵形で大きく，葉腋に集散花序をつける。山野に多産するアカネはつる性で，かぎ状のトゲがある。

■**分布** 県内：江府町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：針葉樹植林，落葉広葉樹林の林縁部草地の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

スナビキソウ ムラサキ科

Heliotropium japonicum A.Gray

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



北栄町 2010.8.10/撮影：磯江茂秋

■**選定理由**：県内各地の海岸に点在するが、海岸部の改変により個体数は減少ぎみである。

■**特徴**：海岸砂地にはえる夏緑性の多年生草本。しばしば群生する。長い地下茎を出して繁殖する。地下茎は太く、茎はよく分枝して高さ30 cmほどになる。葉は互生、へら形で葉柄はない。花期は6-8月。茎の先に短い花序を出し、白色で中心部が黄色い花を多数咲かせる。アサギマダラが吸蜜することで知られる。礫浜海岸にも生育する。観光客が多数訪れる鳥取砂丘では一時消滅が心配されたが、現在は海岸部に少数の生育がみられる。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市・福部町・気高町・青谷町、北栄町、琴浦町、大山町、米子市。県外：北海道、本州、四国、九州。朝鮮、シベリア、ヨーロッパ。

■**保護上の留意点**：海岸砂地の保全。

■**文献**：50。

執筆：磯江茂秋・永松 大

ホタルカズラ ムラサキ科

Lithospermum zollingeri A.DC.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2010.5.4/撮影：木村順二

■**選定理由**：県内での自生は極めて限定されており、里山環境の変化により減少しつつある。互いに隔離されているため、個体群維持に懸念がある。

■**特徴**：日当たりの良い林縁や砂礫地の草地に生育する常緑の多年生草本。茎はつる状で地表をはい、所々から根を出して株状になる。高さは20 cmほど。全体に粗い毛がある。葉は互生し、葉身は狭長楕円形で長さ2-6 cmほど。花期は4月下旬-5月中旬。花は径1.5 cmほど、青紫色で5裂。花の中に隆起した白線が入る。

■**分布** 県内：湯梨浜町、大山町、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の里山環境の維持。より積極的な保護も要検討。

■**文献**：—

執筆：木村順二（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

カリガネソウ クマツツラ科

Caryopteris divaricata Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2006.9.21/撮影：永松 大

■**選定理由**：もともと多産ではないようだが、県内での自生は西部の一部に限られ、互いに離れている。個体数も少ないため、存続に懸念がある。

■**特徴**：低山のやや湿った林縁に生育する中大型の多年生草本。短い地下茎があり、直立する茎から枝分かかれして高さ約1 mになる。茎は四角で、葉は対生し、長柄がある。葉は広卵形でよくそろった鋸歯がある。花期は8-10月。葉腋から集散花序を出し、まばらに花をつける。花冠は青紫色、先は5裂し、下側の1個は大きく伸びて紫色の斑点をもつ。雄しべ・雌しべが大きく突出し特徴的。強い臭気があり、茎を揺らすとよく香る。

■**分布** 県内：日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。朝鮮、中国。

■**保護上の留意点**：山野の半自然地の維持・保全。

■**文献**：—

執筆：永松 大

ジュウニヒトエ シソ科
Ajuga nipponensis Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



智頭町 2010.4.17/撮影：松本 綾

■**選定理由**：在来のジュウニヒトエは自生地、個体数ともに少ない。里山の利用放棄、除草剤の使用などで近年明らかに減少している。

■**特徴**：やや湿り気のある山ぎわの草地に生育する多年生草本。茎は数本束生し、高さ10–25 cm、長白毛が密生。葉は対生で、粗い波状鋸歯縁、長さ3–5 cm、基部は翼状。花期は4–5月、茎頂に淡紫色で唇形の花を密につけ穂状花序をつくる。県内では陽光の原野、崖地や農林道の法面などの砂礫地、雑木林内、森縁などに自生。欧州原産のセイヨウジュウニヒトエは花が青紫色で、花後につるが伸び根を出して広がり、在来種より多産。

■**分布** 県内：智頭町、三朝町、伯耆町。 県外：本州、四国。

■**保護上の留意点**：2006年まで毎年、開花していたが除草剤使用で翌年以降消滅した場所がある。自生環境の保全とともに、地域住民の理解が重要。

■**文献**：—

執筆：松本 綾

ジャコウソウ シソ科
Chelonopsis moschata Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2009.9.9/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：ブナ帯域の陰湿な自然林下に点在しやや希少。テンニンソウなどと混生し、生育が圧迫されていることがある。

■**特徴**：山地の林床や谷沿いに生育する夏緑性多年生草本。草丈50–80 cm。茎は四角柱状で粗い毛があり、群がって直立する。花時にはやや傾いて木質化する。葉は対生し、長さ15 cm前後の長楕円形。晩夏から初秋にかけ、上部の葉腋に淡紅色で筒状の唇形花を1–3個ずつ斜め下向きに咲かせる。茎や葉を揺るとじゃ香のような香りがする。

■**分布** 県内：鳥取市国府町、八頭町、三朝町、大山町、江府町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。周辺の植生保全。

■**文献**：—

執筆：森本満喜夫

キセワタ シソ科
Leonurus macranthus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



琴浦町 2008.8.18/撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では自生地がごく少なく、孤立、希少。ササの繁茂による生育環境の悪化などで、個体群は衰退していく状況にある。

■**特徴**：山地の草原に生育する多年生草本。茎は直立、四角稜、高さは50–100 cm。葉は対生し卵型–狭卵型、洋紙質で粗い毛、長さ5–10 cm、欠刻状鋸歯縁。花期は8–9月、上部の葉腋に数個ずつ紅紫色の花をつける。花冠は白毛が密生し、長さ2.5–3 cm。上唇は全縁、下唇は3裂し紅紫色で反曲。船上山ではササとクズが繁茂し、キセワタは被陰されて2010年は開花しなかった。日南町では開花前に刈り払われた自生地がある。このままでは個体群は衰退する。

■**分布** 県内：琴浦町、日南町。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：定期的な草原管理（草刈り）。関係機関の意思疎通。

■**文献**：—

執筆：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ミカエリソウ シソ科

Leucosceptrum stellipilum (Miq.) Kitam. et Murata

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



八頭町 2005.10.11 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での自生確認は東部の3カ所のみ。2010年現在、智頭町駒帰、板井原の群落はシカの食害にあって消滅した可能性がある。

■**特徴**：山地の樹林下などに群生する落葉性の半低木。葉は対生し、楕円形。近縁のテンニンソウの葉より丸みがあり、先は短く、鈍鋸歯縁。裏には灰白色の星状毛が密生する。花期は9-10月、淡紅色の唇形花を穂状花序に多数つける。雌しべ雄しべは濃紅紫色で花外に突出する。テンニンソウは葉裏無毛、花は淡黄色。変種のオオマルバノテンニンソウは成葉には星状毛がない。ミカエリソウよりやや葉の幅が広く丸みがある。ミカエリソウは県内ではスギ林内やスギ林下の谷沿いに自生。

■**分布** 県内：智頭町、八頭町。 県外：本州（福井県以西）。

■**保護上の留意点**：自然林の保全。シカ食害に強い懸念。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

タジマタムラソウ シソ科

Salvia omerocalyx Hayata

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



若桜町 2006.6.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の東部県境沿い、浦富海岸から東山に至る低地からブナ帯下部に分布。自生地は限定されるが、明確な減少傾向はない。

■**特徴**：二次林の林縁の半日陰に生育する多年生草本。高さ10-35 cm、葉は根生する。葉には長柄があり羽状、頂羽片は大きく側羽片は1-2対で小さい。花期は5-6月。穂状に多くの唇弁花をつけ、花冠は濃い青紫色。雄しべは長く突出。他のタムラソウ類と比べ頂羽片が顕著に大きい。分布地では現在のところ、増加は見られないが減少傾向でもない。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、八頭町、若桜町。 県外：京都府北部、兵庫県北部。

■**保護上の留意点**：自生地の自然植生保護、採取防止。

■**特記事項**：分布西限。国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

ヒメナミキ シソ科

Scutellaria dependens Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



日南町 2008.7.24 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では限られた湿地状の場所に自生がみられるが、乾燥化や周辺植生の変化により、衰退がみられる。

■**特徴**：湿地性の草地の中に生育する多年生草本。細い地下茎を伸ばす。茎は直立し、高さ20-40 cm、無毛。葉は対生し、卵状三角形、長さ1-2 cm。鈍頭で低鋸歯が少数ある。花期は6-8月、葉腋につき、花は唇形で白色。日野町の自生地は湿地の側溝がコンクリートで固められたため、今後乾燥化が進んでヒメナミキの衰退が懸念される。日南町では砂防堰堤上部が湿地状となり分布するようになった。福部町細川の湿地状休耕田内の群落ではヨシが茂りはじめ、生育不適化により減少している。

■**分布** 県内：鳥取市福部町、日野町、日南町。 県外：北海道、本州、九州。

■**保護上の留意点**：湿地、ため池、湿田の保全管理。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ナミキソウ シソ科

Scutellaria strigillosa Hemsl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岩美町 2009.9.28 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内の海岸沿い砂地に点在する。自生地はいずれも小規模で個体数も減少傾向にある。

■**特徴**：海岸沿いの砂地に生育する小型の夏緑性多年生草本。根茎は円柱形で長く地上をはい所々に根を出す。茎は四角で分枝し、葉は対生する。葉には長柄があり、先のとがった心形で縁と両面に毛を散生する。葉は薄い。花期は7-9月。上部の葉腋に1個ずつ鮮やかな青紫色の花をつける。花冠は基部で急に折れ曲がって斜上する。花期には鮮やかな青紫色が目立ち、草むらの中でも見つけやすい。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、湯梨浜町、北栄町、琴浦町、米子市、境港市。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：海岸の保護・保全。小規模な改変にも注意。

■**文献**：52.

執筆：永松 大

アオホオズキ ナス科

Physaliastrum japonicum (Franch. et Sav.) Honda

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



那岐山 2004.6.5 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では、氷ノ山・那岐山周辺の林下にわずかに生育するのみ。シカによる食害で一部の自生地ではごく最近群落が消滅。

■**特徴**：山地谷沿いのやや湿った林内にはえる多年生草本。茎は直立するがやわらかく軟弱、軟毛がある、まばらに分枝して高さ30-60 cm、やや軟毛がある。葉は卵形で柄があり、長さ5-12 cm程度。花期は6-7月、葉腋に下向きに1個の花をつける。花冠は淡緑色、径2 cmほど。県内東部では近年急激にシカの影響が強くなり、2010年にはシカの食害により、氷ノ山の一部や、八頭町の一部の自生地で群落が消滅した。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、八頭町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護、保全。シカ食害への対策。

■**文献**：—

執筆：永松 大

マルバノサウトウガラシ ゴマノハグサ科

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市気高町 2010.10.30 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では水田に多く生育するが、耕作放棄地の増加による環境変化が懸念される。現在は多くの自生地があるが注意が必要である。

■**特徴**：山間の水湿地や水田にはえる1年生草本。稲刈後の水田で鮮やかに紅葉した個体を見つつけやすいが、花を見ることは少ない。茎は直立し高さ5-10 cmのものが多い。葉は卵円形、無柄、長さ5 mmぐらい、数脈がある。花期は8-9月、淡紫色、1-2 cmの柄があり、葉腋につく。中ほどの葉腋には閉鎖花もつける。蒴果は円形。近縁のサウトウガラシは、葉が線状披針形で1本の主脈のみが目立つ。近年、稲刈り直後に水田を耕すことが多くなり、このような水田雑草は観察しにくくなってきた。

■**分布** 県内：各地に点在。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：分布の多い山間地水田は耕作放棄が多く推移に注意。

■**文献**：67.

執筆：坂田成孝

キュウシュウコゴメグサ ゴマノハグサ科

Euphrasia insignis Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) T.Yamaz. var. *kiusiana* (Y.Kimura) T.Yamaz.

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：—



大山 2008.9.7/撮影：鷲見寛幸

■選定理由：大山の岩礫地や草原に生育が限られる代表的な草本植物。
 ■特徴：日当たりのよい高山の岩礫地や草原に生育する1年生草本。高さ10–20 cm。葉は対生で、倒卵形–菱形状円形。花期は7–9月、白色の唇形の花をつける。大山では、個体数はやや多い。本種を含むミヤマコゴメグサの仲間が本州、四国、九州の山岳に広く分布するが、隔離分布のためか地域ごとに少しずつ形態が異なり、多くの変種に分類されている。キュウシュウコゴメグサは葉が卵形で鋸歯が鋭く尖る。萼片は短く、花冠の長さが萼片の2.5倍になる点で区分される。

■分布 県内：大山、道後山。県外：本州（近畿北部、中国地方）、九州（北西部）。

■保護上の留意点：岩礫地や草原の植生保護。踏みつけ防止、採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種

■文献：75.

執筆者：鷲見寛幸

スズメハコベ ゴマノハグサ科

Microcarpaea minima (J.König ex Retz.) Merr.

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類(VU)



鳥取市気高町 2010.10.22/撮影：坂田成孝

■選定理由：県内東部の水田にわずかに生育する。除草剤の使用やほ場整備、耕作放棄の増加などで減少しており、絶滅のおそれが高い。

■特徴：湿地や水田にはえる小さな1年生草本。茎は匍匐して多く分枝し節から発根する、長さ5–10 cmほど。葉は対生し、狭長楕円形、鋸歯はない。花期は7–10月、淡紅色、筒状唇形の小さな花が葉腋に1個つく。稲刈り後の水田で成長する。植物体がごく小さいので掘り取ってルーペで確認する必要がある。2010年10月、気高町の水田にてようやく見つかった。適度な湿り気と日当たりがあり、他の水田雑草のない場所に生育。類似のミゾハコベは葉が広披針形、萼は3個で卵形、蒴果が扁球形、淡紅色。

■分布 県内：鳥取市気高町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：水田稲作の継続。除草剤散布に注意。

■文献：67.

執筆者：坂田成孝

オオバミゾホオズキ ゴマノハグサ科

Mimulus sessilifolius Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：—



若桜町 1987.6.21/撮影：木原清志

■選定理由：1987年以来、県内では確実な記録がない。兵庫県側では確認されており、若桜町内の自生は可能性が高いが、今回も見つからなかった。

■特徴：山地溪谷沿い、常に水が滴るような岩場に生える多年生草本。地下茎を伸ばして小群生する。茎は分枝せず直立、高さ20 cmぐらい。葉は対生、無柄、広卵形、長さ3–4 cm、突鋸歯縁。花期は6–7月。黄色、上部の葉腋に1花をつける。萼は大型。山地の谷間にふつうなミゾホオズキは茎が分枝し、葉に葉柄がある。花は小さく1 cmほど。若桜町で過去に確認された自生地は、標高1000 m付近でブナの伐採や植林により環境変化が大きく、近年の複数回調査でも確認できなかった。引き続き広域の調査が必要である。当地はシカの食害がひどく、対策を検討すべきである。

■分布 県内：確実な自生地なし。県外：北海道、本州（近畿以北の日本海側）。

■保護上の留意点：山地溪谷の自然植生保護。シカ対策。

■文献：24,85,87.

執筆者：坂田成孝

トモエシオガマ ゴマノハグサ科

Pedicularis resupinata L. subsp. *teucrifolia* (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. *caespitosa* Koidz.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山 2008.9.7/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では大山上部のやや湿り気のある草地にのみ生育する。崩落などのため個体数は以前に比べて減少している。

■**特徴**：山地の草地に生育する多年生草本。北海道-九州に分布するシオガマギクの変種。シオガマギクでは花が花序にまばらにつくのに対し、トモエシオガマでは、花序の先端に密集してつく。それぞれの花が同じ向きに曲がっていて、上から見ると巴の形に見える。大山では6合目付近から山頂までの、ヤマヤナギやナンゴククガイソウが生育しているやや湿り気のある草地に自生する。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州（近畿以北）。

■**保護上の留意点**：自生地の草原維持。登山者によるかく乱防止。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

トウテイラン ゴマノハグサ科

Pseudolysimachion ornatum (Monjuschko) Holub

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



湯梨浜町 2010.9.23/撮影：長 兼巳

■**選定理由**：県内では湯梨浜町の1カ所にのみ分布。群落は小さく、個体数も限られる。比較的安定しているが、個体数が増加する状況にはない。

■**特徴**：海岸付近の磯，旧海食崖，砂地に生育する多年生草本。茎は叢生し，高さ30-60 cm。茎や葉には白毛が密生して，花の季節でなくとも目立つ。葉は狭楕円形で，上面は白緑色，下面は白色。花期は8-10月。長さ10 cmほどの穂状花序に淡青紫色の花を多数つける。花冠は4裂，下方の花から開花する。トウテイランの自然分布は山陰の数カ所に限られ，珍しいため各地の植物園に栽培されている。

■**分布** 県内：湯梨浜町。県外：島根県（隠岐），京都府。

■**保護上の留意点**：自生地岩崖の保護。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：長 兼巳

ダイセンクワガタ ゴマノハグサ科

Pseudolysimachion schmidtianum (Regel) T.Yamaz. subsp. *senanense* (Maxim.) T.Yamaz. f. *daisenense* (Makino) T.Yamaz.

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：—



大山 2010.5.13/撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：大山稜線部の岩礫地を代表する草本植物のひとつ。大山が基準産地。

■**特徴**：大山の岩礫地や崩壊礫地に生育する多年生草本。高さは10-20 cm。葉は対生で三角状卵形，羽状に浅-中裂する。花期は6-7月。茎頂に淡紫青色の花を多数つける。果実は倒卵形。和名は果実に付着する萼片を兜のくわ形に見立てたもの。本州のブナ帯以上の山地に分布するミヤマクワガタの地域品種で，葉に重鋸歯があり，萼裂片の先の尖り方が著しくないものとされる。

■**分布** 県内：大山。県外：近畿北部から山陰地方。

■**保護上の留意点**：自生する岩礫地の植生保護，踏みつけと採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：75.

執筆：鷲見寛幸

オオヒナノウスツボ ゴマノハグサ科

Scrophularia kakudensis Franch.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



岩美町 2006.8.17/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部の海岸岩崖にのみ自生する。海岸草地の自然植生変化にともない個体の減少傾向が認められる。

■**特徴**：草地や低山の林縁に生育する多年生草本。茎は高さ1 m程度で、角ばった4稜がある。葉は対生し、厚くて卵形、細かな鋸歯がある。花期は8月、茎の先に円錐花序を伸ばし多くの花をつける。花冠はつぼ形で先は唇形の特徴的な形。暗赤紫色で長さ8-9 mm。萼裂片は披針形でとがる。県内では、海岸崖地の風当たりのよい草地に自生しているが、周りの高茎草本やネザサに覆われがちで個体数は少ない。山地の林下にはえるヒナノウスツボは、茎や葉はやや柔らかく、茎の稜はやや角ばり萼裂片は3角状でとがる。

■**分布** 県内：岩美町。県外：北海道，本州，四国，九州。朝鮮。

■**保護上の留意点**：海岸岩崖の草地とその上部の灌木の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

ヒキヨモギ ゴマノハグサ科

Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



船上山 2010.8/撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：利用放棄による草地の荒廃にともない、自生地、個体数ともに減少。最近10年間でも少しずつ希少化している可能性が高い。

■**特徴**：日当たりのよい草地に生え、イネ科植物に半寄生する1年生草本。茎は直立し高さ50 cmほど。細くて硬く上部でよく枝を分ける。葉は対生し、葉身は羽状に深く避ける。花期は8月。上部の葉腋に黄色の花をまばらにつけ横向きに咲かせる。花冠は唇形で長さ約2 cm。萼筒が長く、上唇に長い軟毛が生える。草地の維持管理、火入れなどにより維持されてきたものと考えられるが、草地の減少にともない、希少化している。県内では岩美町の海岸部と船上山の草地に自生がみられる。

■**分布** 県内：岩美町，琴浦町。県外：北海道，本州，四国，九州，沖縄，千島，朝鮮，台湾，北東アジア。

■**保護上の留意点**：草地の維持管理。

■**文献**：—

執筆：森本満喜夫

オオヒキヨモギ ゴマノハグサ科

Siphonostegia laeta S.Moore

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



若桜町 2010.9.7/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部の岩崖地に自生が確認されている。1年生植物で個体数変動するため、個体群の存続に強い懸念がある。

■**特徴**：低山のやや乾いた草地にはえる1年生植物。茎は岩上に斜上し60 cmほどに伸びるが、花が咲くころは垂れ下がり岩上をほう。全体に腺毛が密にはえる。葉は卵形、鋸歯は大きく切れ込み、下部では対生、上部では互生する。花期は8-9月、花冠はくすんだ黄色で上部の葉腋に1個ずつつく。萼は筒状、裂片は披針形で開出腺毛が密生する。分布の中心は瀬戸内で、低山の麓や道路沿いなどで見られる。県内では若桜町の岩崖地にイワガサやエゾカワラナデシコと混生している。近縁のヒキヨモギは全体に短毛が生え、花は鮮黄色、萼に曲がった短毛が生え、茎は直立する。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（関東以西），四国。

■**保護上の留意点**：自生地岩崖および周辺の自然植生の保護。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

サンインクワガタ ゴマノハグサ科

Veronica muratae T.Yamaz.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



八頭町 2009.5.9/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：山陰地方を特徴づける種のひとつ。基準産地は島根県で、県内では報告が少ない。絶滅危惧評価について継続的調査が必要。

■**特徴**：山地谷沿いの林内や林縁に群生する小形の多年生草本。茎は地をはい根を出して広がる。茎には曲がった軟毛が散生する。高さは約10 cm。葉は対生し、卵型、長さ1-2 cmで基部はくさび形。花期は5-6月、上部葉腋にまばらに数個つける。花冠は白紫色で、径約8 mm。蒴果は菱形で底部は広いくさび形。別名ニシノヤマクワガタ。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、智頭町、鳥取市用瀬町、三朝町、倉吉市、大山町。県外：本州（京都府から島根県にかけての山陰地方）。

■**保護上の留意点**：山地の森林や林縁部の植生保護。

■**文献**：—

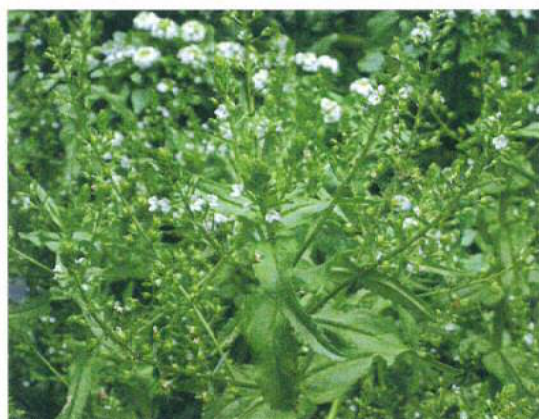
執筆：井上喜美子

カワヂシャ ゴマノハグサ科

Veronica undulata Wallich

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



八頭町 2009.5.22/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：低地の水田用水路などに自生するが、改修などで減少。生育環境に外来植物が増えており、その影響による減少も考えられる。

■**特徴**：低地の用水路泥地や水田にはえる越年生草本。茎は円形、分枝して高さ50 cmほどになり群生する。葉は対生、長楕円披針形で先は尖る。基部は円形で茎を抱き、縁に細鋸歯がある。花期は5-6月、白色で淡紫色の条がある。花柄は花期には斜上する。近年、用水路にオランダガラシ（クレソン）がマット状に繁茂し、カワヂシャを圧迫している。県内中西部では外来のオオカワヂシャがほとんどである。オオカワヂシャは全体に大きい、近畿ではカワヂシャとの雑種が報告されており、継続調査が必要。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町。県外：本州（中部以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：用水路などの湿地植生保全。外来植物対応の強化。

■**文献**：89。

執筆：坂田成孝・永松 大

ナンゴククガイソウ ゴマノハグサ科

Veronicastrum japonicum (Nakai) T.Yamaz. var. *australe* (T.Yamaz.) T.Yamaz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2003.8.4/撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：県内では氷ノ山、三国山、大山山系の中腹以上に点在。県内の高山を代表する草本のひとつ。

■**特徴**：山地の自然草原や溪谷沿いに生育する多年生草本。茎は高さ1 mくらいになる。葉は4-6枚が輪生状につき、長楕円形で長さ10 cmほど。夏、茎の先に淡青紫色で穂状花序の花をつける。和名は、層状につく輪生葉の様子からつけられた。本州の山地に広く分布する基本亜種クガイソウとは花軸に毛が無いことで区別される。個体数の目立った減少は見られないが、生育地が限られているので、生育する自然草原の保護が望まれる。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市佐治町、三朝町、琴浦町、大山町、江府町。県外：本州（紀伊半島、中国地方）、四国、九州の山地。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地草原の保全。

■**文献**：75。

執筆：鷲見寛幸

シシンラン イワタバコ科

Lysionotus pauciflorus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



三朝町 2008.7/撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：県内では中部の2カ所にのみ自生。照葉樹林の伐採と園芸用の乱獲により個体数が減少。この2要因を改善する必要がある。

■**特徴**：コケが着生した樹幹に着生する常緑の小低木。茎は細長く樹上のコケの中をはい、長さ20 cmほど。茎の先端から肉質の長さ3 cmほどの広針状の葉を輪生状に広げる。花期は7月下旬-8月。葉腋に淡桃色の袋状の花を数個つける。花冠は筒状で長さ約3 cm、先端は浅く5裂してやや唇形。低山の沢沿いで空中湿度が高い苔むした老木に着生するが、そのような生育適地はわずか。園芸用の採取も個体群に大きなダメージを与えてきた。

■**分布** 県内：三朝町。県外：本州（伊豆半島と京都府以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。照葉樹林域の沢沿い自然植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：48。

執筆：森本満喜夫

イワギリソウ イワタバコ科

Opithandra primuloides (Miq.) B.L. Burt

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市佐治町 2006.6.10/撮影：松本 綾

■**選定理由**：生育適地は限られており、個体数も少ない。園芸目的の採取が一番の減少要因で、手の届きにくい部分にわずかに残るのみ。

■**特徴**：陰地の岩壁に着生する小形の多年生草本。コケや腐葉土で保水される岩場に多い。葉は短い根茎に束生し、卵円形-卵状楕円形で厚く円頭。基部はやや心形で全体に白色軟毛が密生する。花期は5-6月。葉腋から数本の花茎を伸ばし、散形状の集散花序に数個の紅紫色の花をつける。花冠は唇形、長さ約2 cm。以前は岩場全体が花期には紫色に染まっていたというある自生地では、乱獲の結果、幼苗さえ消えていった。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町・青谷町、湯梨浜町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。山間岩場の自然植生保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54。

執筆：松本 綾

ナンバンギセル ハマウツボ科

Aeginetia indica L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



南部町 2010.8.17/撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：ススキ草地の減少にともない、見ることが少なくなった。県内では西部に多く、東部では希少。

■**特徴**：山野に生育する1年生の寄生植物。宿主はススキが多いが、チマキザサ、チガヤ、ミョウガなどにも寄生する。茎は短く地中に少数の鱗片葉を持つ。8-9月、葉腋から無毛で赤色を帯びた花柄を伸ばし、高さ10-30 cmになる。先端に淡紫色の花を1個横向きにつける。花冠は筒形で長さ約3 cm。萼は鞘状で鋭く尖り、下側が深く裂ける。黄褐色で淡い紅紫色の縦じま模様が入る。県内西部では、ため池土手のススキ草地が主な自生地で、縁辺に10数本からなる集団を複数確認。高原の草地にも自生あり。

■**分布** 県内：八頭町、琴浦町、米子市、伯耆町、大山町、南部町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。自生地のススキ草原保全。

■**文献**：47。

執筆：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）